

基調講演

松江城の魅力 -未来へ伝える価値-

滋賀県立大学 中井 均

◆はじめに

- ・『松江市史』別編『松江城』の刊行 ⇒ 建築・土木・考古学・文献など様々な分野の集大成【自治体史において個別の城が1冊にまとめられたのは極めて稀】
- ※『姫路市史 姫路城』、『七尾市史 七尾城』、『小松市史 小松城』
自治体にとって誇りとしている城がよくわかる
- ・『松江市史』編纂事業 ⇒ 平成20年度に策定された市史編纂基本計画【松江開府400年を記念した事業】

◆松江築城の状況をかんがえる

- ・慶長5(1600)年の関ヶ原合戦 ⇒ 論功行賞による大名の大規模な増減封にともなう移動【慶長の築城ラッシュ】
- ・新たな本拠としての居城の築城
 - ①旧城に入り改修して居城とする場合 ⇒ 中村一忠【米子(吉川広家居城)(旧城(尾高)から旧城(米子))
 - 小早川秀秋【岡山城(宇喜多秀家居城)】、福島正則【広島城(毛利輝元居城)】
 - ②一旦旧城に入った後に新城を築いて居城とする場合 ⇒ 堀尾吉晴・忠氏【富田城(吉川広家持城)→松江城】
 - 黒田長政【名島城(小早川秀秋居城)→福岡城】、山内一豊【浦戸城(長宗我部盛親居城)→高知城】、井伊直政・直継【佐和山城(石田三成居城)→彦根城】
- ・松江城の特徴 ⇒ 堀尾父子の出雲入封(慶長5(1600)年11月)と松江への築城開始(慶長12(1607)年)【旧城から新城普請までの時間が長い】
- ・支城網の貫徹
 - 出雲の場合 ⇒ 本城【松江城】、支城【三刀屋城〔堀尾掃部(吉晴の弟)〕・〔赤穴瀬戸山城(松田左近)〕・富田城〔堀尾河内(吉晴の娘婿)〕・亀嵩城？】
 - 筑前の場合(筑前六端城) ⇒ 本城【福岡城】、支城【若松城・黒崎城・益富(大隅)城・鷹取山城・麻底良城・松尾(小石原)城】
 - 芸備の場合 ⇒ 本城【広島城】、支城【小方(亀居)城・三次(尾関山)城・東城(五品嶽)城・鞆城・三原城・神辺城】

◆国宝天守を考える

・従来の考え方

配置 ⇒ 独立式【弘前城・丸岡城・丸亀城・宇和島城・高知城】

複合式【松本城・犬山城・彦根城・備中松山城・松江城】

連結式【(名古屋城)・(広島城)】

連立式【姫路城・伊予松山城】

構造 ⇒ 望楼型【1階建、または2階建の入母屋造の建物を設け、その入母屋造の屋根の上に2階か3階建の建物を載せる】

【丸岡城・犬山城・彦根城・備中松山城・姫路城・松江城・高知城】

層塔型【五重塔や三重塔を太くしたような形式で、各重の屋根は四方に均等に葺き下ろされる】

【弘前城・松本城・丸亀城・伊予松山城・宇和島城】

・造営年代に注目 ⇒ I期【天正4(1576)年～慶長5(1600)年 絶対的支配の象徴としての天主(天守)】

織田信長の安土城・豊臣秀吉の大坂城・宇喜多秀家の岡山城・毛利輝元の広島城(残存例なし)

II期【慶長5(1600)年～元和元(1615)年 軍事施設としての天守】

松江城・彦根城・姫路城

III期【元和元(1615)年～ 藩のシンボルとしての天守】

弘前城・松本城・犬山城・丸岡城・備中松山城・丸亀城・伊予松山城・宇和島城・高知城

・軍事施設としての天守 ⇒ 井戸(松江城・浜松城・大坂城・伊賀上野城)、便所(姫路城)、狭間、石落

◆おわりに

・変容する天守 ⇒ 現在の姿は創建当初のままか？

正保城絵図に描かれた松江城天守の姿 ⇒ 南面【附櫓・二重目の屋根に2つの千鳥破風・三重目の屋根に入母屋破風】・東面【一重目の屋根に2つの千鳥破風・二重目の屋根に入母屋破風・四重目の屋根に唐破風】

正保年間以後の改修によって現在の姿になったものか

※松江城の別名 ⇒ 「千鳥城」とは正保絵図に描かれた天守の外観によるものか

・城のあるまち ⇒ 200(300)/66,000 と、12/200、5/200【誇りと自信】

※地域における政治・文化・経済の中心地としての城下町

・国宝指定 ⇒ 郷土愛の醸造へ【identity】

守り、伝えていくことの重要性